

4年生の実践

- 1 主題名 ルール違反（4－（1）規則尊重・公德心）
（資料名「雨のバス停留所で」文溪堂）

2 主題設定の理由

（1）価値観

約束や社会のきまりは、人が集団の中で生活し、集団の秩序を守っていくために必要なものであると考える。円滑な社会生活を送っていくためには、それらを守るだけでなく、その意義を捉えさせることが大切である。児童にとって、きまりを守らなければいけない理由があいまいであるからこそ、自分本位な考えから自己中心的な行動をとり、周りの人に迷惑をかけてしまう。つまり、きまりや規則だから守るという消極的な姿勢よりも、社会の一員として周りの人のことを考えて行動し、迷惑をかけないといった積極的な姿勢が大切になる。

そこで、社会のきまりの中で目に見えないルール、つまり、人と気持ちよく暮らすためのきまりがあることに気付かせ、公德を大切にする気持ちを育てるとともに、公德心をもって生活しようとする態度も育てたい。

（2）児童観（男子16名 女子19名 計35名）

本学級の児童において、きまりを守ることができる児童は多い。しかし、なぜきまりを守らなければいけないのかを理解している児童は少ない。実際に注意された際、なぜきまりを守らなければならないのかを問うと、答えに詰まってしまう児童がほとんどである。もしくは、「先生（あるいは親）に怒られるから。」というような返答をする児童も多い。

また、日常の生活の場面において、多くの児童がきまりは守らなければいけないという思いはあるものの、実際には自分本位な考えからきまりを守れないことも少なくない。この時期の児童は発達段階から考えてみても、きまりの枠が自分本位の考えにより緩くなっていく時期であり、本学級の児童においても、例外ではない。

このような実態から児童は、きまりだから守ってはいるものの、「なぜ、そのきまりを守らなければいけないのか」という理由にまで考えは及んでおらず、「自分だけならば大丈夫だろう」という考えが根底にあるのではないかと考えられる。そこで本時では、きまりを守らなければならないわけについて考えながら、価値理解を図り、周りの人に迷惑をかけないというような公德心をもって生活しようとする態度を育てたい。

（3）資料観

この資料は4つの場面から構成されている。まず、雨の日に母親と外出した主人公のよし子が、雨宿りをしながらバスを待つ場面である。大きな傘と荷物を持ってバスを待つよし子の大変さは、雨の中で重いランドセルを背負い登校してくる児童たちも想像に難くない。

バスが来たのを見つけたよし子は、席に座りたいという思いから、停留所でバスを待つ人々の順番を無視して列に割り込む。大きな傘と荷物を持っているよし子が、一刻も早くバスに乗りたいと思う気持ちは、児童にとっても共感できるものであろう。

すると、それを見た母親によし子は自分のいた場所まで連れ戻される。連れ戻されたよし子は座席に座ることもできず、不満を抱きながら母親の方を向くが、そんなよし子に何も言わずに外を見つめる母の顔を見ながら、よし子が自分の行動を振り返るところで資料は終わる。

主人公のよし子はみんなのきまりを守るべきことはわかっているけれども、自分の欲求を通したい気持ちが抑えられず揺れ動いている。みんなが待っているから列に並んではいるものの、雨が降っていることもあり、みんなより早くバスに乗りたいという主人公の心情と寄り添うことができる資料であると考えた。

そのよし子の考えに共感させながら、順番を守るという目に見えないルールにはわけがあることに気付き守っていきこうとする心情を培いたい。

3 指導方針

<事前>

- 丸付けや連絡帳のチェックなどの際に、しゃべらずに順番を守って並ぶように指導する。
- 社会の「ゴミの利用と処理」の学習において、ゴミを分別する理由やリサイクルセンターで働く人の思いをしっかりとおさえる。
- 休み時間や移動教室の際は、きちんと時間に始められるように道具を用意したり、5分前行動を心掛けたりするように声を掛ける。

<本時>

【課題をつかむ】

- 決まりを順番待ちで列に並んだ経験を話し合い、本時の資料につなげていく。
- 給食のコンテナ室前での順番待ちの場面など、日常的な場面を想起させ、心情に共感できるようにする。
- 並んで待っているときのじれったい気持ちに触れ、主人公の気持ちに共感できるようにする。

【価値を追求する】

- 雨の日の登校の様子を思い出させ、よし子の気持ちに共感できるようにする。
- 無言の母の横顔を見ながらよし子が考えたこと、思ったこと、気付いたことをワークシートに書かせ話し合うことにより、人間が社会生活を行う上できまりを守ることが重要であること、円滑に社会生活を行うためにきまりは必要であることに気付かせる。
- 母が怒っていることに触れ、なぜ怒っているのか考えさせることにより、よし子の行動が周りの人の迷惑になっていることに気付かせる。
- 場面絵の他の人の表情にも触れ、なぜその表情をしているのか考えさせることにより、きまりを守ることのわけを考えられるようにする。

【価値を内面的に自覚する】

- 自分たちの生活の中での様々なきまりを思い出し、必要なわけを考えさせることにより、きまりを守るということは互いを思いやる気持ちがあることに気付かせる。
- きまりがなかったら、どのような気持ちになるか想像させることにより、きまりを守るよさを実感できるようにする。

<事後>

- 合唱コンクールでは、決められた時間や場所に自主的に集合できるようにする。
- 休み時間や移動教室の際は、きちんと時間に始められるように道具を用意したり、自主的に5分前行動を心がけてトイレや水飲みを済ませたりする。

4 本時の学習

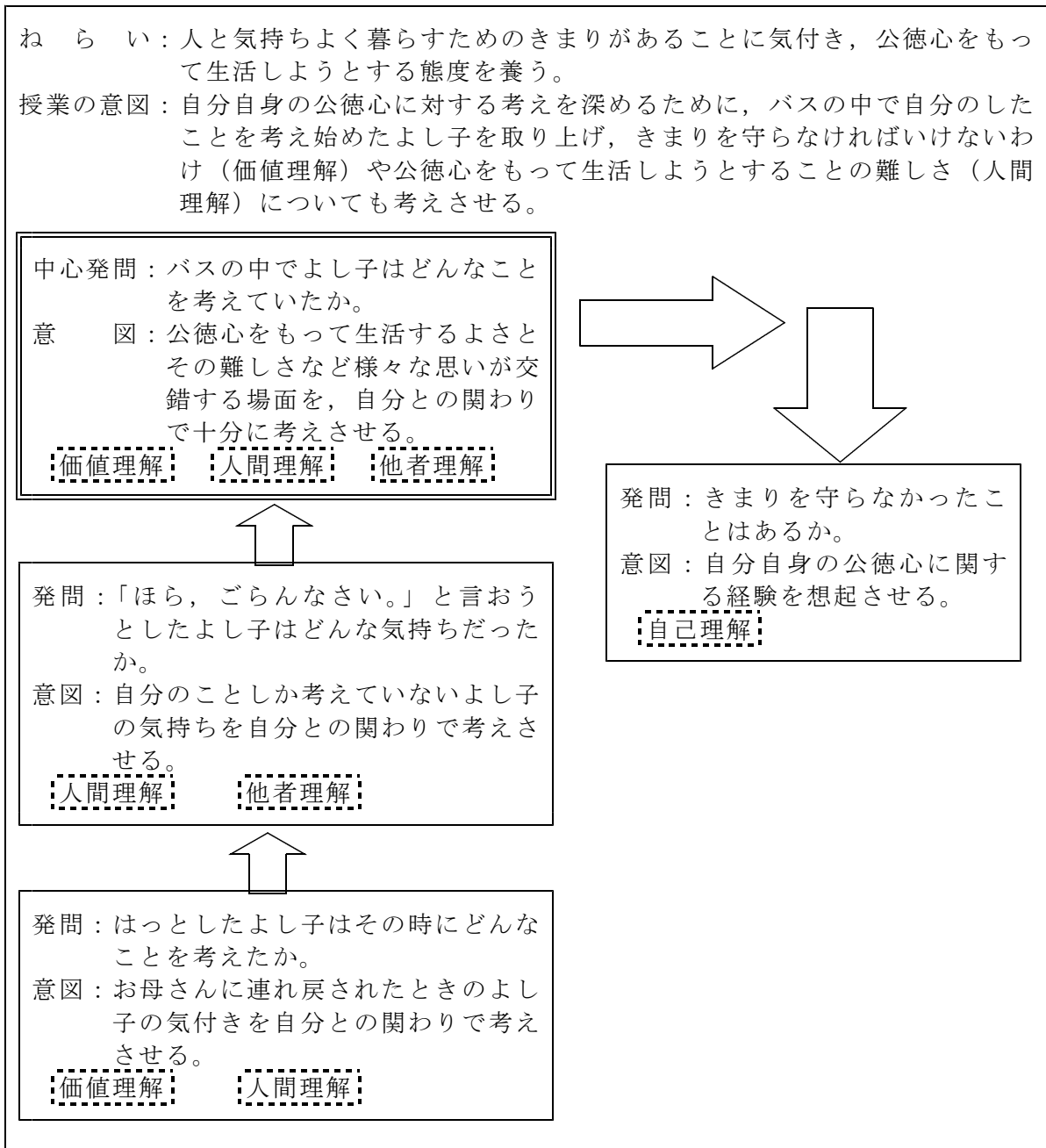
- (1) **ねらい** 人と気持ちよく暮らすためのきまりがあることに気づき、公德心をもって生活しようとする態度を養う。
- (2) **準備** 教師：場面絵・母親の顔を大きくした絵・ワークシート
 児童：筆記用具
- (3) **展開**

過程	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点
課題をつかむ	1. 順番待ちで列に並んだ経験について想起する。 (みなさんが順番を待つために列に並ぶのは、どんなときがありますか。)	・プリントやスキルの丸付け ・コンテナ室に行くとき ・シーソーにのるとき ・ラーメン屋さんで順番待ち	3分	・列で並んで待っているときの焦れたい気持ちに触れる。
	2. 資料「雨のバスでい			

<p>価値を追求する</p>	<p>りゅう所で」を最後まで読み、登場人物と場面を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よし子が雨宿りをしていたときの気持ちを確認する。 (軒下で雨宿りしていたよし子さんはどんな気持ちだったと思いますか。) ・母親にぐいと引っ張られた時のよし子の考えをとらえる。 (はっとしたよし子さんはどのようなことを考えたと思いますか。) ・「ほら、ごらんなさい。」と言おうとしたよし子の気持ちをとらえる。 (「ほら、ごらんなさい。」と言おうとしたよし子さんはどんな気持ちだと思いますか。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・早くバスが来ればいいのに。 ・服やお土産が濡れてしまう。 ・何か悪いことをしてしまった。 ・順番を守らない自分が悪い。 ・他の人が順番を守っているのに。 ・どうして連れ戻すの？ <p>【価値理解】【人間理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんのせいで座れなかった。 ・雨が降っているから早く乗りたかったのに。 <p>【人間理解】【他者理解】</p>	<p>13分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・雨の日の登校の様子などに触れ、よし子の気持ちに共感できるようにする。 ・これらのよし子の行動や気持ちから、よし子が自分本位な考えをしていることをおさえる。
<p>価値</p>	<p>3. バスの中で、お母さんの横顔を見ながら考え始めたよし子の気持ちを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>バスの中で、よし子さんはどんなことを考えたと思いますか。 (中心発問)</p> </div> <p>★ (よし子さんがいちばん前にいこうとしたとき、周りの人はどんな表情をしていますか。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・雨が降っていようが、最初から順番を守ればよかった。 ・お母さんが怒っている。順番を守ればよかった。 ・きまりは分かるけど、雨の日だからしかたがない。 ・なんで怒っているのかな。 ・嫌そうな表情。 ・ムカついた表情。 ・迷惑そう。 <p>【価値理解】【人間理解】 【他者理解】</p>	<p>24分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よし子の気持ちを考えさせ、ワークシートに記入させる。 ・お母さんが怒っていることに触れ、なぜ怒っているのか考えさせる。 ・場面絵の他の人の表情にも触れ、なぜその表情をしているのか考えさせることにより、きまりを守ることの大切さに気付かせる。
<p>価値</p>	<p>4. これまでの自分を振り返って、きまりを守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具を洗うときに、水道のところで順番 	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守らなかったことで、他人

を内面的に自覚する	らなかつたことについて話し合う。	を抜かしてしまった。 ・連絡帳を見せに行くとき、しゃべってしまったのに後ろに回らなかつたこと。 ・休み時間の予鈴が鳴ったのに、遊ぶのをやめなかつた。 【自己理解】	がどのような気持ちになるか考えさせる。 ・きまりを守ることでもみんなが気持ちよく生活できることを確認させる。
-----------	------------------	--	---

5 資料分析図



6 授業記録 (T : 教師 C : 児童)

T : いつもは優しいお母さんが、自分のほうを見てくれない。しかも、口もきいてくれない。そんな時に、バスの中で、よし子さんはお母さんの横顔を見ながらどんなことを考えたのだろう。

- C 1 : 今度から順番を守ろう。
- C 2 : 列を無視して走ったから怒っている？
- C 3 : 何か悪いことしちゃったのかな？
- C 4 : 他の人に迷惑をかけてしまったから怒っているのかな。
- C 5 : ほかの人より先に行行って何が悪いの？

(ここでほかの児童が少々ざわついた。)

T : なるほど。どうしてC 5さんは、そのように考えたのかな？

- C 5 : 並んでいた他の人たちは、軽そうなものしか持っていないから。
- T : そうか、軽そうなものしか持っていないからね。じゃあ、よし子さんがいちばん前に行こうとした時の、周りの人も見てみよう。周りの人はどんな表情をしているかな。
- C 6 : …ちょっと迷惑そう。
- T : そうだね、ちょっと嫌な顔をしているね。みんなだったら、どう？
- C 7 : 怒るかもしれないな。
- C 8 : 注意するかな。でも何も言えないかな。



自分がきまりを守らないと、他の人はどんな気持ちになるかな？



怒っちゃうんじゃないかな

いやな気持ちかなあ…

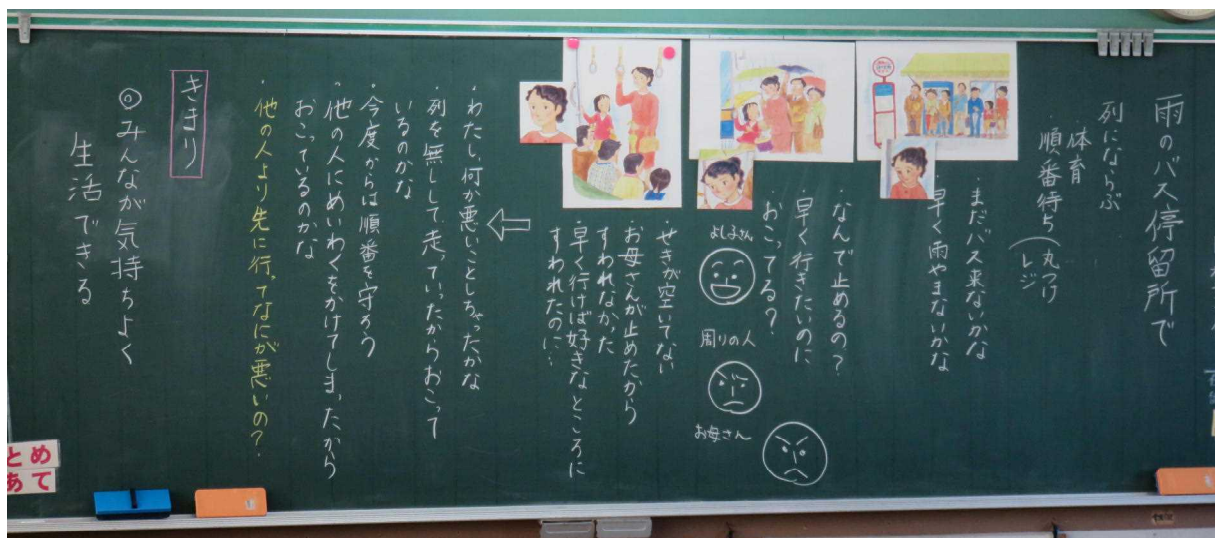
人に迷惑がかかるからじゃないの？

ケガをしたり、ぶつかったりしないようにだと思えます。



どうして、きまりがあるのだと思う？

7 板書



8 成果と課題 (○成果 ●課題)

【課題をつかむ】

○順番を待つために列に並んだという身近な体験を想起させることで、内容について関心をもたせることができた。

【価値を追求する】

○「わたしたちの道徳」にもあるが、表情が分かりやすいという理由で文溪堂を使っていたのがよかった。

○マイノリティーな意見を取り上げていた。

○母の表情を大きくし比較したことは、気持ちを捉えるのに効果的だった。

○展開部でテンポよく進んでいたため、中心発問の時間が多くとれた。

●中心発問を板書した方がよかった。また、出てきた意見を分類すると視覚的にも分かりやすかったのではないかな。

【価値を内面的に自覚する】

○身近なところの意見が出たので、道徳的実践力につながる。

●最後のまとめ(どうしてきまりがあるのか)は児童に考えさせてもよかったのではないかな。

●公德心について考えさせるためには、「社会的なきまり」に絞った方がよかった。

●「怒られる」か「怒られない」が多くなってしまい、きまりを守るわけにつながらなかった。

【全体を通して】

○コの字型の配列は意見の交流がしやすくてよかった。

○板書に流れがあり、きれいで見やすかった。

●子ども同士の交流がもっとあってもよかった。小集団での活動を取り入れるとよい。